

Ⅲ. 自由記述のまとめ

Ⅲ-1. 総括

自由記述については、かなり多くの学生が回答を寄せており、全回答合わせて約 9,900 件の記入があった。回答の傾向は、コース・科目・メディア等（さらに、年齢や職業も関係しているのだろうが）によってその言わんとするところは異なっている。

これらの自由記述における意見を読み込み、記述内容を分析することで、彼らの要望や志向、興味や学習意欲など、さまざまな情報を得ることができる。しかし、数が多いのでそのすべてをここに列記することはただ煩雑を増すだけである。個々の回答については、全ての回答の原文を査読いただくとして、ここでは学生の意見の全体像を俯瞰するために、自由記述に記入された意見を傾向ごとに分類・集約した。

集約方法は、コース（プログラム）の科目ごとに、その科目を受講して①「よかった点」②「気になった点」を、その意見内容の傾向によって分類整理し、さらにそこから「改善点の提案」を抽出した。

さらに、留意しておきたいのは、入学試験のない放送大学の性質上、受講生の素養や理解度のレベルにはかなり大きな差があるということである。加えて年齢の問題も関係してくる。実際に「老齢なので、小さい文字が読めない。」「新しい言葉はわからないので説明してほしい。」「記憶力が衰えているので、記憶力が問われるテストは困る。」「論述ではなく選択式にしてほしい。」等の意見が目立つ。また、同じ科目であっても、「難しすぎる」「もっと高度な内容にしてほしい」という意見が並列することもある。普通の大学では、このような要望を目にすることはあまりないと思われるが、放送大学では頻出している。以下の自由記述のまとめは、以上のことを踏まえたうえで参考にしていたきたい。

まず学部の科目全般を集約すると、「よかった点」として以下の意見が多く見られた。

- 勉強になった、役に立った
- 新しい知識、知らなかった知識が身に付いた
- 知識の整理・深耕に役立った
- 今後の人生や仕事・生活・学習に役立つ
- 視野が広がった、視点・考え方が変わった
- 基礎的な知識を得られた

全体的に要約すれば、「教養の深まりと広がり」「実生活への反映と実践」に寄与したことが高評価の要因となっている。

また、「興味を持てた、関心を持てた」「さらなる学習意欲がわいた」「今までにな
い内容で興味深かった、新鮮だった」などの興味関心を促した意見や「学習センターや
図書館が良かった／受講しやすい環境だった、楽しく受講できた面白かった」等、放送
大学の存在や体制に対する好意的な意見も目立った。

次に、放送授業のよかった点としては、以下の意見が多かった。

- 分かり易く講義していた
- 講師の熱意や人柄の良さを感じた
- 受講して良かった
- 現場取材やインタビュー、実験があつて良かった
- 映像や写真が多用され、分かり易かった
- 事例や身近な例を取り上げていた

「講師が分かり易く熱意をもって講義すること」「ビジュアルや音の要素を活用し、面
白く見せる・聞かせること」の2つが、放送授業の高評価につながる要素と言えるだろ
う。この他「ドラマ形式や、アニメ・CG が良かった」「対話形式の授業が良かった」な
ど講師が一方向的に説明するのではなく、一工夫あつたことも高評価の要因に挙げられる。

印刷教材については、以下が挙げられている。

- 分かりやすく、勉強になった
- 新しい知識・視点を得ることができた
- 引用・参考文献の紹介、練習問題が良かった
- 体系的に良くまとまり、整理されていた
- 基本的な知識を得られた、概要がわかった
- 図版や表が役に立った

要約すれば、「分かり易く面白く読める構成と内容であること」「図版や表などでビジュ
アル的にも訴えかけること」「引用・参考文献の紹介、練習問題でさらに進んだ学習がで
きること」の3つがより良い印刷教材作成の鍵となる。

通信指導については、以下が目立つ意見であつた。

- 添削・コメントをしてもらえた
- 分かりやすく丁寧な指導だった
- 記述式が良かった

学習を進めていく上では、「添削やコメントによる、丁寧な指導」「単純な設問ではな

く、「記述式の設問」が受講者にとって、励みとなっていることがうかがえる。

単位認定試験については、以下が挙げられた。

- 試験内容が適切だった
- 単位がとれた
- やりがいがある試験だった

試験内容については、「単位が取得できたこと」や「放送授業・印刷教材の内容から適切な試験となっていたこと」が評価に繋がっている。

一方、科目全般で「気になった点」としては、「よかった点」の裏返しで、難易度、内容や説明の不足、内容の広さ、具体例・事例不足、実生活と学習の調整に関する不満が多かった。

- 難しい、高度すぎる、理解できない
- 分かりにくい、説明・解説が不十分
- 内容が浅い、もっと専門性を持たせてほしい
- 具体例・事例・実践的な内容を増やしてほしい
- 内容を詰め込みすぎ、ボリュームが多すぎる
- 時間が取れない、勉強についていけない、努力不足だった
- 構成または内容を改善してほしい、内容を充実させてほしい
- 関連する科目・基礎科目を開設してほしい
- 現実に活かせる内容にしてほしい
- 興味・意欲がわかなかった、面白くなかった
- 参考書や問題集、補助教材を紹介・発刊してほしい

難易度に関しては、受講生の理解度・素養のレベルに差があるので、すべてに対応するのはなかなか困難であろう。しかし、「関連する科目・基礎科目を開設してほしい」「内容を詰め込みすぎ、ボリュームが多すぎる」「時間が取れない、勉強についていけない、努力不足だった」を踏まえると、基礎のみを重点的に受講する講義の開設も検討が必要になってくるだろう。「参考書や問題集、補助教材を紹介・発刊してほしい」については、講義の理解度や知識向上のために積極的に紹介・発刊していくことで改善されていくと考えられる。

次に放送授業で気になった点では、以下が目立った。

- テレビ科目にしてほしい
- 印刷教材を棒読み、または読んでいるだけであった
- 難しい、高度すぎる、理解出来ない、説明が不十分
- 印刷教材と連動していない
- 講師の話し方や発音、講義態度が良くない
- 構成・内容が良くない
- 具体例・事例・練習問題を増やしてほしい

「テレビ科目にしてほしい」が圧倒的に多く、やはり映像で確認できることが理解には必要ということだろう。また、「印刷教材を棒読み、または読んでいるだけであった」「講師の話し方や発音、講義態度が良くない」などは学生の学習意欲低下に繋がるので、早急な改善が求められる。

印刷教材で気になった点は、以下が挙げられている。

- 内容が理解しにくい、難しい、解説が不十分
- 図・写真・イラスト・表を増やしてほしい
- 文字・図・表・写真が小さい、画像が粗い、分かりにくかった
- 色刷にしてほしい
- 内容の詰め込み過ぎ、ボリュームが多すぎる
- フリガナ、専門用語の説明などがほしい
- 構成・内容が良くない、面白くない
- 誤植がある

印刷教材の難易度については、やはり受講者の理解度・素養が大きく関係している。「図・写真・イラスト・表を増やしてほしい」は難しいと感じている受講者にとっては、理解するのに重要な資料である。また、「文字・図・表・写真が小さい、画像が粗い、分かりにくかった」「色刷にしてほしい」は年齢や科目により差はあるが、解像度の充実を図っていきたい。なお、「誤植がある」は改善が必要になってくる。この他、「資料や数値、データが古い」といった意見も散見されたので、定期的な改訂が重要といえる。

通信指導については、以下の意見が寄せられている。

- 課題の内容・量が的確ではない。
- 指導内容、コメント、対応に不満がある
- 放送授業・印刷教材・単位認定試験と内容がずれている
- 問題の解答・解答例・解説がほしい

- 課題範囲が広すぎる、難しい

講義の流れに沿った内容で、個人のレベルに寄り添った丁寧な指導が求められている。

単位認定試験については、以下になる。

- 試験が難しすぎる、難易度を下げるべき
- 試験内容の設問・難易度に違和感があった
- 問題の解答・解説・用紙がほしい
- 試験内容が授業・教材・通信指導の内容と異なった
- 教材・電卓持込み可にしてほしい
- 試験が簡単すぎる、難易度を上げるべき

これらの要望は、主に受講者の学習進度や受講体制に関連しているものである。「難しすぎる」という意見に対して「簡単すぎる」という意見もある程度出ているし、「問題が多かった」という意見に対して、「少なすぎる」という意見も目立つ。また、「記述式がよい」と「〇×式、選択式がよい」のどちらも上がっていた。

以上、学部生の意見を大きく集約すれば、以下が求められていると言えるだろう。

- 興味を持てる内容を、分かりやすく、おもしろく講義する
- 学習に必要な資料の充実
- 丁寧な指導とアドバイス
- 適切な試験で単位が取得できる

可能な限り受講者の要望に沿うことが求められるが、これは全体を俯瞰した内容であり、さらに個々の科目ごとに見ていくとそれぞれの差異がみられる。それらを分析し、今後そのカリキュラム編成を見直し、科目に合ったレベルや授業方法の改善に結びつけていきたい。

次に、大学院の集約した結果を見ると基本的には学部と大差なく、サンプル数が少ないこともあり、学部ほど目立った差異を見出すことはできないが、「よかった点」よりも「気になった点」の方が多くなっている。これは、学究の進捗とともに要望も高度なものになっていると考えられる。

まず、全体的な「よかった点」としては、知識や学習意欲の向上に関する意見が多く見られた。

- 知識の整理・深耕に役に立った
- 勉強になった、役になった
- 新しい知識、知らなかった知識が身に付いた
- 視野が広がった、視点・考え方が変わった
- 今後の人生や仕事・生活・学習に役立つ
- 最新の情報・研究が学べた
- さらなる学習意欲がわいた
- 手元に置き、今後も読みたい内容だった
- さらなる学習のヒントや情報を与えられた

この他、「面接授業や実習」「学習センターや図書館」を評価する意見もいくつか見られた。大学院であるから当然ではあるが、それぞれの探求の姿勢と方向性が専門的かつ明確であり、志学の焦点がはっきりしていることが感じられる。

一方、科目全般の「気になった点」としては、内容の専門性の充実を求める意見が多くなっている一方、難しいといった意見も上げられていた。

- 内容が浅い、もっと専門性を持たせてほしい
- 分かりにくい、説明・解説が不十分
- 内容・範囲が広すぎる、テーマを絞ってほしい
- 具体例・事例・実践的な内容を増やしてほしい
- 内容を詰め込みすぎ、ボリュームが多すぎる
- 時間がとれない、勉強についていけない、努力不足だった

放送授業で「気になった点」は、以下が非常に多く見られた。学部とほぼ同様であり、放送大学全体としての検討が必要である。

- テレビ科目にしてほしい
- 印刷教材と連動していない
- 講師の話し方や発音、講義態度が良くない

印刷教材の「気になった点」では、放送授業とのずれを指摘する意見が見られた。

- 図やイラストを増やしてほしい
- 内容が理解しにくい、難しい、解説が不十分
- 放送授業と内容が異なる
- 文字・図・表・写真が小さい、画像が粗い、分かりにくかった

通信指導での「気になった点」は記述が少ないものの、以下の2点が目につくので、さらに丁寧・熱心な指導が求められている。

- 課題の内容・量が的確ではない
- 指導内容、コメント、対応に不満がある

単位認定試験での「気になった点」では、相反する意見があるが、高度な試験を期待する声の方が若干優位であった。

- 試験が簡単すぎる、難易度を上げるべき
- 試験が難しすぎる、難易度を下げるべき
- 記述式にしてほしい
- 評価方法に疑問を感じる
- 教材・電卓持込み可にしてほしい

以上、大学院ともなると、さすがにある程度学習が進んだ受講生が多いせいも、「試験を簡単にしてほしい」とか「授業が理解できない」という声は全体で極めて少なく、テレビ化への要望を別にすれば、授業そのものへの不満も少ない。印刷教材でも内容・構成や編集への要望が多くなっている。

大学院では、受講する側も高度な教育を求めている。それは、単に講義内容のみならず、学部以上に科目構成の充実や講師の熱意・指導力も必要とされるということである。

受講生も限られているので、教育の頂点としての大学院を目指しつつ、一つ一つの事例に対応することが求められている。